

## 情報を集めましょう

ペットはその種によって、習性や寿命、生活環境や必要な世話が大きく異なります。一般的なペットである犬や猫でも、その本能や習性を知らないで飼っている人は少なくありません。飼う前に、本で調べたり、ペットショップで聞いてみるなどして、信頼できる情報を集めましょう。同じ種類や品種のペットを飼っている人に話を聞いたり、実際に世話をさせてもらおうと、具体的にイメージがつかめます。

また、生き物ですから当然個々の性格の違いもあります。購入したりもらってくる前に、オーナーにその個体の個性についてきいてみたり、親やきょうだいを見せてもらおうとある程度予測をすることができます。

広告や書籍の中には、「飼いやすい」「おとなしい」「利口」などいいことばかり書いてあるものがありますが、どんなペットにも、長所と短所はありますし、飼う方のライフスタイルによって長所が短所になったりその逆もあります。簡単に飼える生き物などありません。流行や見た目、イメージなどで選んでしまうと、後でとんでもない苦勞をする羽目になりかねませんから、その習性や本能、生態、必要な施設・設備などをきちんと調べ、自分に飼えるのか冷静に判断することが必要です。

### 爬虫類ブームとグリーンイグアナ

column

十数年前、鳴き声もなく毛も飛ばず、散歩の必要もないので、集合住宅でも飼いやすいということから、爬虫類の飼養がブームになったことがありました。中でも、グリーンイグアナは、植物食なので餌の管理がしやすく、店頭に並んだ幼体のエメラルドグリーン（エメラルドグリーン）のきれいな色や、二十cmほどの小さな体のかわいさも人気となり、ちょっとした人気となりました。しかし、流行と同時に、紫外線不足や栄養障害で病気になるグリーンイグアナの幼体が動物病院に運ばれてくるようになるなど、数年後には数十cmもある成体のグリーンイグアナが道端などに捨てられているのが発見されるようになりました。

グリーンイグアナは熱帯地方原産で、高温の環境と多くの紫外線が必要です。中緯度地帯にある日本では飼うには、専用の温室と紫外線発生装置が必要となります。餌も多種類の野菜をバランスよく与えなくてはなりません。また、成長すれば1m近くにもなり、顎や尾の力も強くなります。

飼いはじめの前に、どんな施設が必要なのか、何を食べるのか、どのくらい大きくなるのかなどを調べていけば、不十分な管理が原因で病気になるなど、大きくならずからと遺棄されるグリーンイグアナはいなかったはずなのです。

※現在グリーンイグアナは要注意外来生物に指定されています。

